

2022年4月26日

各位

会社名 株式会社MCJ
 代表者名 代表取締役社長兼COO 安井 元康
 (スタンダード市場 コード番号: 6670)
 問合せ先 経営企画室 広報 IR 担当
 ir-otoiawase@mcj.jp

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等をふまえ、2021年5月14日に公表いたしました2022年3月期通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。なお、2022年3月24日に公表いたしました1株当たり年間配当予想32円の変更は予定しておりません。

記

1. 業績予想の修正

(1) 2022年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(金額の単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	168,400	14,700	14,900	10,000	101円94銭
今回修正予想 (B)	191,247	13,435	13,680	9,283	94円63銭
増減額 (B - A)	22,847	△1,265	△1,220	△717	—
増減率 (%)	13.5	△8.6	△8.1	△7.1	—
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	174,173	15,758	15,510	10,005	101円98銭

(2) 修正の理由

2022年3月期につきましては2021年5月公表の期初業績予想の段階より、市場環境が軟調に推移する事や調達環境に係る不透明感が高い事、及び新会計基準適用の影響を受ける事などから前年同期比で減収減益を想定しておりました。

市場環境につきましては、通期にて前年比4割程度減(台数ベース。JEITA調べ)となるなど期初想定以上に軟調に推移し、原材料・部材不足の影響については期初の段階では下半期に向けて回復を見込んでおりましたが、通年を通じて全体的な不足感及び価格高騰が継続しております。

また、昨今の事業環境及び足元の業績推移を鑑み、2022年3月24日付「配当予想の修正に関するお知らせ」(増配)にて開示しました通り、業績については期初予想を「売上高は上振れる公算が高い一方で、各利益については下振れる可能性が高い」としておりました。

その様な中、ユーザーニーズにあった製品群に特化した製品開発や営業施策の展開、迅速な在庫確保等に努めた結果、当社グループにおける出荷台数及び金額は市場トレンドを大きくアウトパフォームしたことから、売上高につきましては期初業績予想よりも13.5%上回る事となりました。

一方で、利益面につきましては原材料・部材価格の高騰の継続及び価格が高止まりしていたことか

ら、期初業績予想よりも7%～8%程度それぞれ下回る見込みとなりました。

しかしながら、上記利益面での期初業績予想比の減益は、調達やサプライチェーン混乱の影響や新会計基準適用の影響等、一時的な要因や外部要因に伴う事項が主因であると考えており、その環境下においても当社グループは継続して市場をアウトパフォームし、売上成長、すなわち市場シェアの拡大を遂げていることもあり、当社グループの根本的な成長性や将来の見通しの強さに変化があるものとは考えておりません。

その様な見通しであるため、現時点において当期2023年3月期については、前期2022年3月期比での増収増益を見込んでおり、今後も成長トレンドの維持が可能であるとの見方より、2022年3月24日に開示しました増配（1株当たり配当金額を30.52円から32.00円へ増額）については変更いたしません。

引き続き、当社グループは将来のデバイス市場の動向等を的確に汲み取り、マーケットニーズに合致した製品のタイムリーな投入を図ると共に、広告宣伝活動によるブランドの認知度向上を継続し、製品及び顧客軸での多様化を図り、売上及び利益の拡大に努めてまいります。また、自社の持つバリューチェーンの更なる強化、取り扱い製品やサービスの拡充等を念頭に、M&Aやアライアンスも駆使しつつ、既存の事業領域及び関連領域において更なる事業の拡大を図ってまいります。

以上

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成されており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。